

「まちづくりファンド」は、高知市に住むあなたのまちづくり活動を応援します

公益信託高知市まちづくりファンドニュース

まちファン

32号

2019年3月28日

2018年公益信託「まちづくりファンド」中間発表会



2019年1月20日(日)、公益信託「高知市まちづくりファンド」2018年度中間発表会を開催しました。助成先12団体19名、関係者が参加し、和やかな発表会となりました。

中間発表会プレゼンテーション

Bコース各3分、Cコース各5分の持ち時間で活動発表を行います。各団体の発表を聞いて、参加者は各事業について良い点や質問・提案などを付せんくに記入します。

今回は「はるのあじさいコミュニティークラブ」の高校生や「KOCHIのZOU」の大学生など学生による発表があり、若い世代の活躍に会場の雰囲気も温まりました。



▲各団体のプレゼンテーション

付せん貼りタイム

参加者が各事業への意見を記入した付せんを各事業(団体)別のシートに貼ります。

意見交流

運営委員の進行により、貼られた付せんの内容をもとに、すべての事業(団体)と意見交流を行います。



▲5分で活動発表します



▲付せん貼りタイム



▲付せんをもとに意見交換

大好評の
交流会



いつもは発表や
審査で緊張してるから
リラックスできて
交流するのは、
楽しいね!



▲どんな活動しゅうが?

中間発表会の後、昨年度開催し大変好評だった交流会を開催しました。助成団体や卒業団体の皆さん、地域活動に興味を持っている高知大学の学生さん、運営委員、事務局の27名が参加しました。積極的に互いに交流を図り、またこのような場を設けて欲しいとの声もいただきました。



B まちづくりはじめての一步コース

上限
5万円

B1 トーメン団地自治会

トーメン団地第5回桜祭り(桜ウォークラリー)

第5回桜祭りに向け、自治会において総会や実行委員会を開催し、今年の桜祭りのテーマを「桜楽・花咲いさんのプレゼント」に決定。祭りのデモンストレーションや住民交流会を開き、桜祭りの取り組みが団地住民の交流の場として、良い効果をもたらしています。

参加者の声

- 地域の方が楽しい集いとなるよう企画され、取り組まれているのが地域に活気ができいいと思う。
- 積極的な役員さんがいて楽しそう。若い私たちも参加したいようなイベント。

Q&A

Q:桜まつりの参加者目標は何人?
A:今年は夜間のライトアップも予定しており、300人前後の方には来ていただけるのではと考えている。

B2 「育児は育自!」実行委員会

子育て座談会~個性・特性の違いが活かされる共生社会のために~

気軽に子育てや人間関係の悩みを相談できる場を提供しようとして座談会「パパママカフェ」を12月に開きました。ゆっくりとお話を聞いて喜んで帰って頂きましたが、参加者が少なく思っていた効果は得られなかったように思います。今後は広報活動を徹底し、2月と5月に開催を予定しています。

参加者の声

- 子育て中の親が悩みを気軽に相談できる場として、少人数でも相手の顔を見ながら話し合えることが大切だと思う。
- チラシデザインがかわいいです。

Q&A

Q:広報活動にはどのように取り組んだか?
A:高知新聞こみゅっと、暮らしの情報社への掲載、近隣スーパーへのチラシの掲示、付近の小学校・保育園・育児相談施設への配布などです。

B3 特定非営利活動法人キャリア・ライフ高知

無料電話相談

無料電話相談を毎週金曜18時から20時行っています。問題解決の方法や今後の進路を見つげられることを目的としています。相談者が自信を持って今後の人生に向かう決心がされたこと、また高知新聞に取り上げられたことで、活動の評価と波及効果を期待しています。

参加者の声

- より良い活動へつなげるという工夫がされていて良い。
- 事業の内容・目的が分かりやすくニーズは多いと思う。

Q&A

Q:かかってくる相談について構わない範囲で教えて。
A:職場の悩みや自分のこれからの生き方や人間関係について。相談する中で決心がつき、自らが決断・納得された経緯がある。



C まちづくり一歩前へコース

上限
30万円

C1 長宗我部会

地元高知の人にもっと長宗我部氏を知ってもらいたい

県民にもっと長宗我部氏を知ってもらいたいと約半年間取り組んできました。大河ドラマ化の推進の為、web 署名サイトの作成と署名活動の拡大を実施しています。なるべく多くの方に署名してもらえよう計画を見直し、変更を申請しました。またマンパワー不足が課題です。

参加者の声

- 広報の仕方を工夫されている。
- 大河ドラマ化されることで必ず観光客が増え、まちづくりにつながるはず!

Q&A

Q:マンパワー不足による実情と原因は?
A:会員は30名ほどいるが実際に活動しているのは10名ほど、また事務処理等ができる人材が少ないのが現状。

C2 西畑夏祭り実行委員会

西畑太刀踊りの復活・祭りの再生

「西畑太刀踊り」の復活を目的に毎週火・金に伝統文化教室を開き、昨年は4回発表会で披露し、約1500の方に見ていただきました。高知新聞の記事を見た小学生、活動を見た高知大生や一緒にやりたいという女性が参加してくれるなど、嬉しい効果がありました。

参加者の声

- 歴史ある芸能伝承が素晴らしい。続けていってください。
- 子どもから大人まで幅広い参加があり、とてもすてきです。

Q&A

Q:新しいメンバーがどういった経緯で入ってこられたか?
A:発表会が終わった時に申し出があった。1人は太刀踊りと西畑人形両方やりたい、もう1人は三味線もできるとのこと非常に期待している。

C3 春の七草フェスタ実行委員会

「春の七草フェスタ」の開催

里山のスローフードを手作りして楽しむことを狙いに開催した七草フェスタはリピーターを含め195名の参加者があり盛会でした。地域の有害鳥獣対策として、技術の伝承が不可欠になってきたため、ジビエ料理に使うイノシシを捕獲し、解体する講習会を開催していくことにしました。

参加者の声

- 参加者、特にリピーターが多いのがすごいと思った。
- ジビエ提供の背景もまちづくり、問題解決の一つ。

Q&A

Q:参加者はどこに住んでいる人が多い?
A:高知市内が多いが、帰省して参加してくれたリピーター始め県外からの参加者もいた。

C4 特定非営利活動法人ワークスмираい高知 薫工ミュージアム

いろいろな楽しむ演劇Project

地域の中にある文化を広げ、より豊かなものにするを目的に多様な人が色々な存在を楽しみながら1つの演劇を作り上げ上映するプロジェクトです。少しずつ協力者が増えていますが、トークカフェの開催や交流会で広げていきたい。つながりができた盲学校での出張ワークショップも定期的に行っていく予定です。

参加者の声

- 協力者を着実に拡大しているのが素晴らしいと思った。
- 演劇が発展すればよいですね。

●Q&A●

Q: まだまだ盛り沢山の残りの活動、うまく進められそう?
A: 障がいのある方や生きづらさを感じている方々とのコミュニケーションは丁寧に判断が必要。丁寧に進めていきたい。

C5 はるのあじさいコミュニティクラブ

産官学民連携によるあじさいの花復活を通じた地域コミュニティ活性化事業

地元住民が繋がり、着々と成果が表れつつあります。私達高校生は、長年管理している方に「手入れ次第で必ず復活する、管理方法が大切」と聞き、「あじさい街道管理マニュアル」を作成し、地域に配ることを次の目標としました。この活動を後輩達に引き継ぎ、住民の方々から協力を得られるよう頑張っていきたいです。

参加者の声

- 管理マニュアルの配布といった、次の活動に取り組んでいっているのがすごい。
- 高校生が行動し、地域の人たちがそれをサポートする理想的な地域づくりだと思う。

●Q&A●

Q: あじさいのプランターはまつりの後どうしているのか?
A: 来年度のイベントに向けて現在130のプランターを春野高等学校で管理をしている。

C6 高知ビッグバンド

高齢者による高齢者、地域住民のための豊かな暮らし創り

色々な地域で演奏し、一部地域住民がボランティアでお手伝いをしてくれました。また車椅子を利用している軽度の半身障がいの方が突然自力で立ち上がり、リズムをとってダンスを楽しんだことがあり、メンバー一同大感激で「共に楽しむ」を実現しました。

参加者の声

- 障がい者の方の意欲を引き出す活動、素晴らしい。
- パワーがすごい!! 楽しみ!!

●Q&A●

Q: 高齢者へのお知らせはどのようにしているのか?
A: 前のバンド時代に訪問した県下の施設に再度メンバーと訪問し、施設長などに案内をする方法をとっている。

C7 KOCHIのZOU

高知市のまちづくりに学生も参加するぞう

子どもたちに運営から関わってもらうことで、企画力がつき、コミュニティも生まれ、またイベントを通して子どもたちや保護者、地域住民や地域団体と交流する機会ができました。来年度は、企画・運営・広報を担える学生がいないことなどから今年3月で活動を休止する予定です。

参加者の声

- 小学生にとって、小さいころに運営をする経験はとても貴重な機会であると感じた。
- 学生が大人と子どもを繋ぐ立場となっていて素晴らしい。

●Q&A●

Q: 社会人の生活が落ち着いたらいつか復活させる予定?
A: 社会人として経験を積んだりもっと勉強をして、また関わっていただけたらと思っている。

C8 シアターTACOGURA

アートX地域。キャンプ・防災減災プログラム

最終年の今年度は地域の文化資源を活かした防災減災プログラムを完成させようと、小学3～6年生対象の防災キャンプを行いました。地域の方たちに協力してもらい、子どもたちが避難所でのペットを連れて来た人への対応や、外国の人との文化・言葉に触れることができる内容も取り入れるなど工夫しました。

参加者の声

- 子どもたちに合わせた避難所で起こりうることを想定し、活用できる力をつけるための良い活動であると思った。
- 子どもでなくても勉強になる活動。

●Q&A●

Q: このプログラムを経験して子どもに防災感覚や知識がどれだけ身についたか。
A: 色々な人がいて色々な問題があることに気づく。宗教の関係での食事の問題、障がいのある方への避難時のサポートの必要性など。

C9 高知地域猫の会

人と猫が共生できる街づくり～地域猫活動～

30年度は高知市地域猫活動団体登録が設けられ、第1号として登録を受けた町内会のメンバーが頑張っています。他にも住民同士が協力して頑張っている町内会が登録へ向けて手続きをしています。私達が全部やるのではなく、住民の方が自分たちで協力し継続してやっていくことを目的としています。

参加者の声

- その地域の方々が活動することを重視していることが良い!
- 活動がどんどん進むとともに多くの賛同者が増えていることが素晴らしい。

●Q&A●

Q: セミナー参加者がとても多く、その戦略を知りたい。
A: 第1回目は高知新聞で記事にもらい、第2回目は前回来てくれた方全員にダイレクトメールを送り8割の人がリピーターとして来てくれた。今年度は「あかるいまち」に取り上げられ、テレビ局にもダイレクトメールで案内をした。アンケートをとるとSNSやチラシより高知新聞や「あかるいまち」を見てきた人が圧倒的に多かった。

●中間報告会を終えて

<p>●運営委員長 増田 和剛 (高知中・高等学校教諭)</p>  <p>活動を展開する時の情報発信源として、SNSの活用が一番便利なのにも思えますが、実は新聞等の活字が確実に情報を伝えやすいことを活動報告から感じました。</p>	<p>●副運営委員長 堀 洋子 (社団法人高知県建築士会)</p>  <p>計画を進める上で、年度途中の計画(予算)変更をするグループが有りますが、より有効な活動費として使う工夫をしていただきたいです。</p>	<p>●運営委員 石川 貴洋 (認定NPO法人環境の杜こうち)</p>  <p>まちづくりはやって初めてわかることが多々あります。うまくいってもそうでなくても、行動した事がきっと皆さんの力になります。</p>
<p>●運営委員 片岡 照敏 (社会福祉法人てくとこ会 自立訓練施設てくとこ・せと)</p>  <p>今回発表された12グループとも、概ね順調に事業を推進されていると思いますので、今から7月の最終発表会を心待ちにしています。</p>	<p>●運営委員 坂本 萌 (高知大学人文社会科学部)</p>  <p>私にとって最後のまちファン、とても有意義なものになりました。運営委員としての活動は終了しますが、皆さんの活動をこれからも応援しています!</p>	<p>●運営委員 四宮 成晴 (四宮計画事務所)</p>  <p>オモイが届かない、計画どおり進まない、思わぬ障害が立ちはだかる。そしていつのまにか空回り、苛立つ。アテンドの琴線に触れた一日でした。</p>
<p>●運営委員 三谷 英子 (学校法人三谷学園 RKC調理製菓専門学校)</p>  <p>今年度で運営委員を退任することになりました。皆さんのパワーに感銘を受けました。地域愛と使命感にかられて行動を起こす人たちの集まりこそ、まちづくりの真髄ですね。今までありがとうございました。</p>	<p>●運営委員 宮地 貴嗣 (ラ・ヴィータ宮地電機株式会社)</p>  <p>活動がうまくいっている団体とそうでない団体が見受けられました。うまくいっていない団体は、うまくいっている団体から学んでください。</p>	<p>●運営委員 山中 雅子 (NPO法人アテラーノ旭)</p>  <p>今期をもって運営委員を退任することになりました。この間色々な団体がさまざまな活動をされ、熱い思いで挑戦していることに感動し、私にとっても視野が広がり学ぶことがあり、良い体験ができました。ありがとうございました。</p>

運営委員退任のあいさつ **坂本 萌** (高知大学人文社会科学部)

約2年間という短い期間でしたが、私の学生生活において欠かすことのできない、思い出深い活動のひとつとなりました。毎日が刺激的で、まちづくりとは何か、高知の誇れるものとは何なのか、助成団体の皆さんの活動を通して真剣に考えることができました。助成団体の皆様が、回を重ねるごとに着実にステップアップしていくのを目の前で感じることができ、まちファンという事業に関わらせて頂いたことを誇りに思います。

皆様の活動をこれからもずっと応援しています。私自身これからもまちづくりに積極的に関わっていきたく思っておりますので、またどこかでお会いできたら嬉しいです。ありがとうございました。

●坂本運営委員、三谷運営委員、山中運営委員が今期で退任されます。

SMSに関わった学生たち、ありがとう! そして、これからも頑張れ!

日曜市のサポーターとして7年間頑張ってきた高知大学学生団「SMS」(Sunday Market Supporters)が昨年12月に団体としての活動を終了しました。ファンドではおなじみのSMSですが、このたびファンドに25万円の寄附をしてくださいました。



まちづくりファンドは皆様の まちづくり活動を支援する仕組みです。

まちづくりファンドの創設にあたり、高知市から出捐(しゅつえん)された基金を毎年取り崩しながら助成しています。少しでも長く市民のまちづくり活動に活かされるよう、多くの皆様のご寄付をお願いいたします。

寄付に関するお問い合わせ・お申し込みは、下記にご連絡ください。

株式会社 四国銀行 個人サポート部 信託担当
TEL088-871-2067(直通)
〒780-8605 高知市南はりまや町1丁目1-1

高知市市民活動サポートセンター (月～金 10:00～21:00、土 10:00～18:00)
TEL 088-820-1540 〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
E-mail info@shiminkaigi.org http://www.kochi-saposen.net

発行 高知市市民活動サポートセンター 企画・編集 認定特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議